

大伴金道忠孝圖會

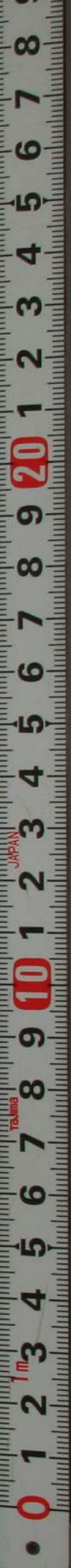
前編

三

13

2692

3





18
2692
3

大伴金道忠孝圖會前編卷之三

目錄

豐璋奢殺福臣諫言并執得諫福臣
 豐璋之姪酒小其荒心忠信福信大以諫奏之圖
 福信臨死大罵執得
 新羅再犯百濟并枝市田來津戰死
 枝市田來津新羅軍之惱并陣歿之圖
 五百稚漂流孤島
 五百稚海島并巨巖之射弓勢を示以圖

五百推弓勢射赤熊
 五百推雪中数即等と赤熊と射る圖
 大友皇子密謀并賜諸將恩賞
 垣雅明療春衡并月小夜懸想春衡
 金烏嬖月小夜并妬婦謀棄艷書

同圖

大伴金道忠孝圖會前編卷之三

浪華好華堂野亭考選

豐璋奢移福信諫言 執得諛福信

書曰曰一人貪戾あまごむ一國乱を起すと夫酒色小溺と政勢と荒と
 其國亡ひざる者あまごこれ有む夏の祭王の妹喜が色小荒と奢移超過
 社稷を亡ひ殷の紂王姐妃を寵遇して酒池肉林の遊樂小國家
 と滅せり是前車の覆る例小後車の絨とをなせり然小彼百済王
 豐璋日本天子の仁惠小依り父母の國小飯り王位小即新小宮室を營造
 今其身金殿玉堂小安即昨日の艱苦も今日の歡樂小打とこれ
 けり奢移遊具小耽り國政を卿大夫小任せ佞臣執得とる者と愛り
 美女と集り酒宴逸樂と專とるれ執得ひとる王小諛ひく朱氏

女玉蓮とり美人を王勸めたる此玉蓮の天のかせる美婦あつて肌を凝る
脂乃でく。婉傳さる顔の天津乙女の下界に降りしりと疑つ。揚柳の腰嬋娟
あく。羅綺ふも堪ざる風姿。古の王照君趙飛燕も劣るや。直に二度
竹天を城を傾け二度笑を國を傾ると賦せんも此玉蓮が美貌ふ如し。七
と評しあへ。されど豊璋此佳人を得てより心魂を蕩し昼夜側と放す
雲雨の契濃くふ。玉蓮がと望むる万金を抱き遣へる程小倉景
見がふも空しくんと。大夫執得ま勸め王宮管造小吏寄る民小謀
役を糞税を重く貢を虐て其聚斂の財過半に掠りし。不義の
富貴と極めたるふと國人恨み憤り廳所小愁紛をる者數とあ。將軍
福信の豊璋が驕奢とんく大い憂ひ國治りくまぶ入心定らざる小君倭臣
乃顔惑ひ酒小荒れ色小瀾とめ。六七國の基たかり練むる右を金くび

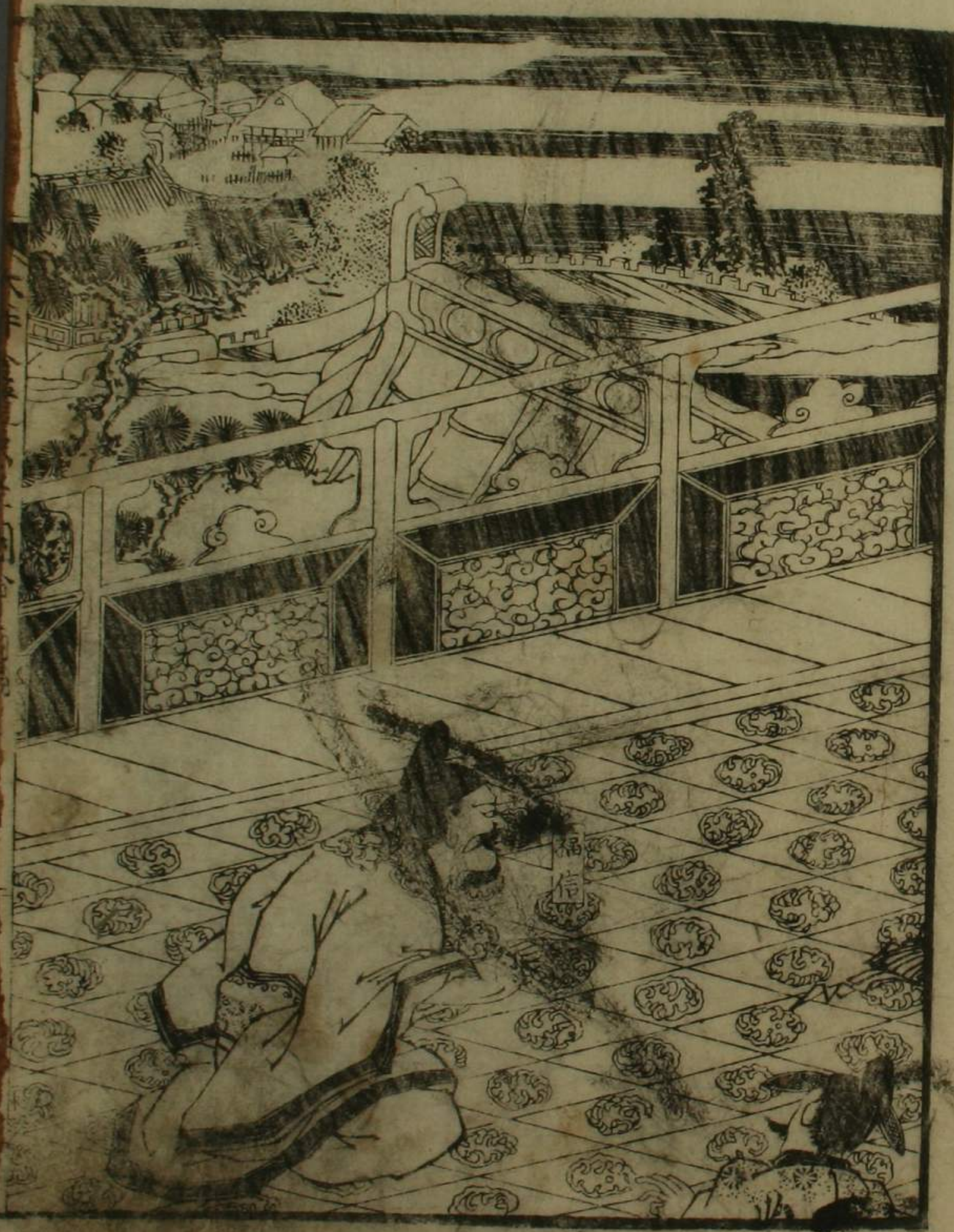
とて朝服を調へ王宮へ参り國王豊璋小絹して申する先君太平の逆樂小
怠りゆひ武備嚴密あさる左隣國其弊小ふ不意小攻められも
維り一人命と抛り忠戦を励む者あり。さる左小先君鈍くと虜ふせられ
ゆひ命と敵手小損しゆひゆも。せし君君禄を食し卿大夫を扇のてく
山林小逃隠も君も已小敵のてめ小縲紲の辱を受け受ゆふを臣微
力と尽して救ひもり日本へ送し進せ。扁塞の孤城を守りて強敵を防
るの三年。膽と嘗新小卧て先君の仇を復再び社稷を引與さん。昼
夜戎衣と解む千若万勞せず忠と高天憐れゆひ幸ふして傳國の
援兵と得き。と大唐新羅の猛軍死のてく確く自國へ敗ませし
左君を迎へて王位と継せし。國人よ。中居と安んじし。日本王の
仁惠小する所。二ツの臣が微忠の致を処かり。然ハ先舜の道を守りし。

徳と脩め儉と守り去者を伐懲り怠るを励み治し居るを乱と忘れず世に
たふ忠戦の爲に屍を原上小曝せし者の膏血いす乾くざるを倭臣の
小惑ひの女色小耽り淫酒小荒る者移のる小國賊を散し下民を
虐る者之扶けとありも甚ぞ以て是るがずの周の幽王隨の煬帝の
類ひは皆酒色小耽り國傾る例の大塚千重たぐも是と知願くを今
日より美人を退け倭者と遠避ゆい。國政の爲に呻と吐孔孟乃教を
守り黎民を撫育し武備と嚴重ふまの國家永久の儲となりと
或ハ歎た或ハ怒り理を尽して練められ豊璋王も及まふ約なく面と赤
らめ你がの処悉く理の至極なり予多々過てり向後你の練のどく身と
慎むる先今日退くをいとやされしを福信緘とハ思されともさのこを
とて其日退出せり多々倭臣執得ハ先刺り帷帳のそ陰小隠を居て

福信が諫言と遂一ふせり今福信が退出せりとる。豊璋の前小出
して中々のハ臣前刺り福信が中処とせし表ハ忠言似れも言中
を奪り君を怨ん己が軍功小誇る非礼の言の多し彼己が武勇小慢
に朝廷の諸臣と小見のどく直下ハ我の國家再興の忠臣なりと言ぬ斗
小矯り君ハ有らも無がごとくやと奇怪かれ臣世上乃風説をせし福信
先達より日本王ハ密使と立百倭王新羅の虜とありて今と落し太子豊
璋ハ其性暗愚懦弱小く國を治る事小ありと。あれ福信小援り勢を借
のハ大唐新羅の敵を退退け揚々を百倭國を日本ハ献り福信挽監
とたつて民と治め猶透を窺ひ新羅高麗とも攻取日本天子乃皇子
と請して三韓の王と仰せし人茲とも豊璋倭國小客居せると其然小
未捨おれめてハ國人飯伏いすやかくいを一旦國小迎り王と時小勤免て

百餘國を献らせしなり。君後ひいつをんを豊璋と退放ちて國を献りしに
永、日本も居るなりと誓書小血を洒り盟を日本も是と許し俄に
援乃勢を渡海させ且福信の莫大乃賞禄と与へ大王も僅小布三百
及を賜へし君臣の賜何ぞ斯雲壤の違ひ有や。まうのとおむと福信の
金の策と与へし。且日本の下より證跡なり。茲に渠表を忠臣にせ内
心、國を賣の賊小く早く殊いぬをんを禍の脚身小及びひなりと跡形
あら絶言しされしもの近は日頃福信の強直と忌憚り折あをまは
絶せんと思へ輩今執得が絶言の尾小付言すもいなり。ほも如此くの
吏とまは我も如斯の義とまはと言或は日本の將枝市が此國小く
留るは福信と心を合へ。大王と退退んるなり。あんと。異小絶するあんと
未暗弱の豊璋且と絨かりと思ひ已小七分の疑念と生れり。浸潤之

諂膚受之想行れざるを明と謂ふに已と孔夫子の曰し由宜あるふ。國家
と保つまは慎むをえりたり。福信はか、佞者の絶口熾んるをまはす
王の行ひ改りやと聞れとお以前より猶信と晝夜淫酒小溺るる風
絶あらは大小患ひ又まは見え。和漢の例を引く強し練りたれども忠言却
り耳小逆ひ豊璋福信と忌疎れり。後、福信が朝を退れり。母小病と稱
して對面せられ福信力かり朝を退れり。長し歎息し。噫想し。いふ。此
國は他人の有とある。獨心と困るる。や人の耳ハ牆小即といふ
鏡の下に此言早し。絶者の耳小入又まは告る。福信如斯く小言り君を
絶りゆ。尾鱗を添へ絶言し。其上執得未玉蓮小密小言る。福信大
まう行ひを疎れ。是令く朱玉蓮有ゆたれ。暗小害せん。專、你を想
よりあり。早しまは告る。福信と殊異し。身の横難と避り。絨、中、小言師



豊章少酒
世を患て
福信大小
謙争す
図

これぞいかたれ女心不実かりと思ひしは福信を怨む。豊璋小見へは福
信が切害せんと言ふよしと告ぐるおど。兼て疑念を生か。忌悪む福信が妻あり
也。豊璋大い怒り。國を賣賊何ぞ如此妻ありや。你妻するも勿ま。彼國
賊を誅せしむ。即ち執得在。臣奇卿武勇の者。從へ福信の家。小
押寄家宅。小火をうけ。福信を先と。妻子從軍。小く。慶。首と。皇。未
小肆よと令し。れ。執得大い。小。令。承り。小。良。官。者。を
首と。三百余人の兵。率と。師。直。福信が。家居へ。地。向。此。支。早。く
福信が。方。へ。え。れ。福信長。歎。我。君。忠。の。君。小。萬。死。を。辱。と。千。苦。と。凌
。適。社。稷。を。回復。せ。小。君。愚。昧。小。臣。下。奸。佞。小。我。忠。練。用。の。れ。と。却。
。逸。者。の。小。小。叛。逆。不。良。の。虚。名。と。唱。ら。多。支。國。家。滅。亡。の。時。節。至。来。ま。と。
所。小。天。か。り。令。力。か。り。比。干。心。と。裂。ま。て。一。般。の。代。亡。に。伍。子。胥。眼。を。く。つ。と。吳

の國滅し。己を。と。書。信。を。く。て。和。將。枝。市。田。津。津。を。陣。遣。國。乃
。妻。と。告。ま。せ。郎。舎。と。灑。掃。一。妻。子。從。軍。と。集。り。最。期。の。酒。宴。と。わ。り。後
。率。小。向。ひ。て。曰。我。君。暗。愚。小。驕。奢。小。就。王。位。人。の。讒。言。と。信。し。我。と。叛。逆。を
。唱。征。兵。と。向。り。是。國。家。の。泯。滅。る。端。小。我。が。運。の。尽。る。処。か。り。依。て。征。兵。と
。引。受。死。と。決。せん。と。欲。と。然。も。你。們。の。我。と。伴。多。年。籠。城。の。功。小。功
。有。て。罪。あり。早。く。落。去。り。何。方。小。か。り。と。身。と。寄。命。と。令。と。せ。と。言。れ。緒
。率。大。小。強。く。中。小。も。鬼。室。と。り。者。進。も。出。り。曰。己。小。如。此。を。將。軍。此。処。を
。去。り。旧。の。城。小。立。電。征。兵。の。勢。を。采。り。屠。殺。し。後。將。小。加。勢。を。包。王。宮。と。逆
。寄。り。て。冬。道。の。王。及。び。饒。者。の。首。と。く。小。劍。百。餘。一。國。を。取。り。同。立。の。人。と。是。と
。天。の。子。所。か。り。古。り。天。の。子。を。取。れ。却。り。天。の。処。と。受。り。と。中。平。や。剛
。臆。ま。れ。も。王。方。の。弱。率。何。十。も。寄。來。る。と。物。の。一。く。碎。碎。ん。と。易。と。下

賣人をも。其隠謀已小露頭。大主我を以て其罪を明さす。其若
陳謝の約あり。郎と出縛小乾。王宮奉り陳謝せよ。其義も叶ふんを
速小自裁せよ。捕逐ひを執る。遅滞せよ。勿ち一家を焼く一人も余さず。中
の二灰とあを奪う。鞍押あてど。罾り多。福信大い怒り。執得小唾を吐け
喘と睨て曰。府曹大いも劣。奸賊國の大事小臨。てハ尾を振て逃これ
太平小復りてハ耻面を擧ぐ。王小縮ひ奢移放逸を勸め。民を虐げ國
を危ふ。是獅子心中の毒虫とも。罾つぬ人面歎心。う。あなたがた。癡奴小
釘を穿とる。舌の穢る業。大丈夫が最期の一言と言聞を奪。抑我此
國を篡んと思。先小豊璋と倭國ハ落。ゆるすでもあ。其時小執。敵
徒を逐拂ひ。百倭國のま。あ。人。更。及。も。安。せ。も。世。國。の。祿
を食。恩を顧。暗弱のま。日本ハ落。一命と抛。扁塞。小。城。守り

大唐新羅の大軍と物の屑ともせむ。城小籠る。三年幸小倭國の援小依
大敵を退退け。豊璋と呼迎て。王位小即志むる。我大功小報。何者
乃功なる。然小愚昧のま。早く我功。と。心。你。如。奸。賊。の。約。小。購。む。ま。と
國と。身と。滅さ。と。知。國小忠ある。辰。殺。ん。ま。思。さ。よ。我。國。人。を
懐け。道。の。暗。君。と。進。致。も。你。們。を。市。小。斬。ん。と。易。と。魚。猶。居。る。乃。節。を
守り。道。か。も。主。小。對。て。ら。と。奪。む。只。一。死。と。潔。く。せん。の。我。一。命。ハ。懸。と
の。も。我。死。か。此。國。忽。ち。他。人。の。有。と。あ。奉。と。以。て。大。地。ハ。擧。外。と。も
我。一。言。ハ。遠。く。を。只。恨。く。云。我。眼。と。王。城。の。門。小。懸。く。你。們。が。身。小。天。討。廻。り
ま。る。昏。君。と。復。小。敵。の。殊。戮。小。遭。を。見。せ。る。よ。と。大。音。呼。響。り。佩。る。劍。を
拔。持。て。自。ら。首。掻。落。し。死。し。り。り。り。噫。惜。む。る。國。家。再。興。の。忠。臣。不。幸。小
して。奸。徒。の。倭。舌。ふ。り。を。累。年。乃。功。勞。水。の。泡。と。なり。終。小。夕。乃。露。と。消。し。り

を歎息せざる者へなり。此時師舎の内は鬼室が斗ひて家内を
火を發し福信が妻子と首を後卒們に殘せし猛火の中へ飛入り
一鬼室を擡げけりて福信が首と屍を取て火中へ投入其身も續て火乃
中へ飛入て死すを健氣なり。執得梅豹們は始終をあらめ居るを
今火を防げよと士卒亦消せしは勇ま王城へ引返りたる。後小和將
技市田來津の豊璋福信們が柳田とす小任せ。五千の兵を領して百餘回
小在陣に多く不圖腰痛の病を發し。医療の爲小數月を送り此頃衝
全快し然れども今本國へ飯んとありし其準備とす処小忽ち福信が使者
あり書札を呈する小と何事やと披ねられ。小は豊璋が著者殺放傷
を先く倭臣執得が幾言小依り。福信が邸舎に征兵とす。向條國家乃
滅亡と察し自殺とす旨と書し我死すを不目小新羅勢再び攻まらる

を。早く兵と率て倭國へ飯陣去ると微細小書より。田來津大り小
孩は是はいふ小此國小福信を一日も安穩あまらんと。我豊璋を
練り福信が死を止んとめ。先使者とす。即時小行装と調へ近侍乃
士二十人許と引連馬と逸り先福信が邸舎へ蒐者とす。小早邸舎
を焼亡せし跡あら。田來津案小相違し。心中小想道福信己小亡
上ハ豊璋小對面とす。益あり。我命と我命と我命と此國あり
ふら。百餘回存亡とも見届くと。飯朝せんも言甲斐あり。先陣所
へ飯里と三思と廻り。豊璋を練め政事と正し。せんとのと。むじと
旧の陣所へ引返り。却て執得梅豹亦ハ王宮小飯里と福信が前
滅せし趣を養ふ。豊璋大の小飯里と兩人功を賞し。是より維
憚り愈進酒俱樂小耽り。國の政事ハ執得等乃倭臣小任せ

つるを思わたりつる。新羅を韓隆の往年の敗軍と念ふ。其の
何奉敵國の虚を窺ひ再び百俵國を攻取先敗の耻を雪ぐんと專
問者を入る。百俵國の動靜を窺はせ多く小忽ち問者一人を
豊璋政事と荒く。忠臣福信を殺し。倭臣執得政道を專め。國
人怒り叛く。と注進。韓隆大いに治む。須波や日頃乃本意と
達とを廢し時節を至來せりと。急小唐朝へ使者を遣て加勢とを乞
唐王是と許し。大将李勣を惣都督とす。孫仁師を副將とす。右軍乃將
を劉仁朝左軍の將を劉仁軌。三隊の勢十二万余騎新羅の加勢とを
國とす。新羅國小著く。韓隆治む。長途の勞を極む
ひ重く管侍し。自國の勢八万余騎と。龜集め唐の兵と合して二十万余
騎旌旗雲乃と。野小荒山小満く。百俵國へ進發し。つるを
つる

執力のたりたり

新羅再寇百俵 并 枝市田津津戰死

百俵王豊璋はつるを更にも不知。晝夜玉蓮と酒宴遊樂小耽り。つる
竟と守る者より。新羅王二十余万騎の猛軍と。急て攻来る。つる都へ
飛馬を以て急と告ぐる。擲の齒を挽が如く。豊璋是と告ぐ。仰天。是の
乃備と定むる者もた。鎗鐵區く。一決せむ。臆病あり。族の早拔く。つる
落行ゆ。多りたり。増て民農人を老たると扶け。幼れを誘入。私財を抱へ。つる
東西小支り。南北小さる。女童六。泣叫び。其強勳。目。粟乃沸。及小異。お
らす。王王豊璋ハ此物音と。つる。膽を消。今更福信を殺せ。つる。後
悔と。それと。身。即。脚。踏。定。て。起。り。能。く。と。朱。玉。蓮。ハ。猶。更。悲。心。ハ

王の衣乃袂おとさうて戦慄執得ふ救ひを乞むるあり。執得も心慌あざ
まると蓮と成。輦ふま近臣小兒せう後園ふりり。池の小舟ふまと蓮
を移し系しめ已も舟船水門を用たてて落行々。再脱新羅勢八百
餘の境なる白江の港を押し入り路を犯し掠て都へ攻入
りしるも誰一人是を防んとする者おれ軍率とも王宮小乱とへ。宝
器財物を奪ひ争ひ或は逃匿し人民乃持し衣帛私賤と掠り乱妨
攘藉磔言る小物なり。倭持枝市田来津ハ斯と安く長款し。福信が
先見を毫も遠くとも早も新羅の賊軍龍表以來り。我今此國
の乱を見おろし鈍くと余所小見く飯朝せし。鬚頭唐人を後をんせし
ふんぐ嗤咲せし。人妻日本の耻辱なり。敵二十余万騎の猛軍小僅五千の
小勢と以て向んを一壺の水と以て大火を消んをさる。如く神也利有づれば

あつたれども死を懼く名へ重し。死生まきり天敷かり。へてや煽慢し一戦と
遂決く戦死せんと。五千騎の逞率と一隊と。自身馬を先小躍らせて
香象の大海と渡る勢ひをかり。都を陥らし鬼到り王城の西小出せし。劉
仁軌が陣へ面も振どおろし喚て代て入田来津三尺余の大太刀と電光乃
閃く。てり振多し。群る敵を中を幸ひ小切く落すと。さかかき草と薙
小更ぬも。大将如此たれ。後率も是を励まされ一死族と成て敵を切
る。唐軍は今まで支る敵。益小油断と在る。多小俄小倭軍乃為小切
とす。れ周障狼狽乱と互討り者救ふも。主將劉仁軌大り怒り
和軍勇ありとも僅の小勢あり。何程の更る有ん。只引包へ一人も唐軍
針取やと軍扇を揮り下知れぬ。唐軍より一隊伍と互撃し。和兵と
鉄桶のてり。圍と攻立る。田来津此の心と怒り。眸逆し。裂血

夕ふ漆しつふしきなる太刀たちと手振てぢぢて雲霞うんげのく敵中てきちゆうと東西南北とうせいなんぺいへ萬通まんつうするや七八
度敵てきを切きて落おちせし致いたさるも此この繞まわる勇ゆう小碎せうさい易やすし劉りう仁軌にきが陣ちん列れつ彩さいくと
乱らんとて閑ひらた麻あ麻まきまれ田の津つ得えると敵陣てきちんを蒐あ枝げ一息吐ひといきつと味方あじを
顧かへまむ五千ごせんの勢せいも百人ひやくにん許ゆる不ふ伐ばつなされる然しかも少すくも氣きと屈くつせと精神せうしんと
益えき勵りきと遥とほ向むかふ唐たうの副將ふくしやう孫そん仁師にしが屯とんええれが田の津つ殘ざん率すうと後あとて
疾風しつぷうのく敵中てきちゆうへ蒐あ入い縦たて横よこ小蒐せうさう必かならずく多おほく大將たいしやう孫そん仁師にしが鞭むちを揮うて下
知ちざると遠とほ月げつ小蒐せうさう見みと望のぞむ敵てきあり馬うまと拍うくと死しが如ごとく蒐あ迫せ付つ所ところ小
仁師にしが部ぶ下の將しやう毛林もうりん趙てう甫ふ馬ま沖ちゆうの三人さんにん田の津つを討うち取とんと支さ出して三さん方ほうより
撃うてるをとれる田の津つ大たい小せう怒どりと大たい太たい刀たうと真額まがく小せうくと先ま一いつ刀たう小せう毛林もうりんを
切きて落おちしと二にの太刀たちと横よこ小振おぢて右みぎ手て迫せ寄よ趙てう甫ふと腰車こしぐるま小斬せうざんをと其間そのま
小細せうさいんとと寄よ馬ま沖ちゆうと物ものくと撞うちと高たか揚あげて敵中てきちゆうへ入い礮たうと投なげ

るれる唐軍たうぐん大たい小せう恐おそ怖おそしと八はち方ほうへ逃にげ走はしりと道みちおのける閑ひらた々た田の津つ收しゆうび
孫そん仁師にしと目めかけて蒐あ寄よわと仁師にし叶かへ思おもひえん馬うまと拍うて逃行にげゆく田の津つ
道みちぎと馬うま小拍せうぱく入いれるも數刻すうかくの惡戰あくせん小馬せうま疲つかれと進すすむと得えるも田の津つ心しん寄よ
ち馬うまの頭あたまと起おこり躍なりと韋駄わいだ天てんのく逃にげ蒐あ難がたか仁師にしが馬うま小付せう馬うまへ
尾お戎じゆう抓つかり引ひ戻もどすと剛力ごうりきのく蒐あ函はんられて馬うまの殘ざんれと上かみとと孫そん仁師にしの溜りゅうり
もあもと横よこ小せう噴ふんと落おち々たと田の津つ早はやくと絶たるも捕とらて押おしと捻ね首くびあり
と捨すておとるも此時このとき劉りう仁朝にちゆう劉りう仁軌にき等ら大勢たいせいを以もつて和軍わぐんと取とりと鳥とり炮ぱうを遣や
間まわり放はなちとるも田の津つが從ま率すう一人ひとりも殘のこらずと乱らん玉ぎよくのく蒐あ令れいと路ろ一いつ大
將しやう田の津つも玉ぎよく痕あと殺ころすも所ところ小受せうえるも今いま是こゝをと鎧よろいの上うへ解とけと履はきて
字あ小せう捨すて切きり終つひ小異國せういこくの露つゆと消きえる誠まこと小田せうた津つが動うご止とまる山
乃趙雲てううんが魏けいの百萬ひやくまん騎きを蒐あ必かならずせる勇壯ゆうさう小せうのく蒐あ唐軍たうぐん新羅しんら勢せいも台たいと深

しこ心ま合や。惜うか續く味方なく。遠く乱軍の中今と落せし。屍無
域乃土小埋めとも名の本朝の音史小田の百代小美名を残せしと雷まうた

執得弑豊璋王 執得五道被斬市

却鏡百倫王豊璋ハ玉蓮と俱小舩小まて都外落多るが往而港小
續大河なれ小舩あて渡り得る小あまれを執得船と田めさせを皆
陸小上り。是より玉蓮か手と携て野を過山を越し落行小の小言
履ど素足なれを路徑の名小足と傷り且歩し且想て道たうと手
ひる鳥の羽音風小鳴樹木の音も敵軍の退る小やと肝を令し夢路
をたし心地と都と稍遠く落延異の扁山里小着る山賤の家小
よよく足と留て潜し隠し昨日中へ金殿玉樓小錦の褥をのる起
附も今日所獲れ萱屋の内小の菓の蓮小塊をたしきり由鼎を陳

八珍玉食小飽と身も今推の葉小威泰の飯と柴の折著小甘ひて僅
小露の令下とはなぐ小付ても返く福信が練言を思ひ牛。後悔脬と嘔
いも及む。昼夜玉蓮と手とり組し泣き小。甲斐たれ月日をど
送りも。出小頼がたれ人心と。執得はしり。世の風貌を歩合と小
百倫國の群小糸や新羅王小降り事て。百倫一國全く新羅の者と
なりし。の義あし。逆中豊璋再び榮花の時小逢るれ妻あつ。不如
暗小弑し。其首と朱玉蓮と及新羅王小献し。降を乞く封禄を得
んものと忽ち悪念と生じ。家主と密小謀と示し合し。或夜豊璋小
く酒を吞せり。醉卧せ。情かくも執得主君の寢首と搔。玉蓮と鏡鎌
して引連豊璋の首と山賤小携りさせり。新羅王の陣營小到り。豊璋
の首及び朱玉蓮を献して降と乞はれ。新羅王韓隆玉蓮が美貌と

小天銖を免れんとす。変は及ぶ。慎まざる。斯く百餘回
乃緒官人悉く新羅王降。王々々依て。國中拒敵。のた。一國残
新羅の百となり。百餘の國。作遂。此時。絶。たり。

五百推漂着孤嶋

却鏡日向國山鹿の城。至金田五百推。船前卷。小鏡。金山浦の沖。小
難風。吹漂。され。本船。小離。と。其処。とも。悪風。乃。漂。流。
大洋の上。小明。暮。凡。十。余。日。行。み。二。ツ。の。嶋。小。漂。以。著。う。五。百。推。を。先
と。刺。羽。荒。瀬。以。下。の。郎。黨。も。始。て。蘊。生。し。心。地。一。船。より。下。嶋。の。磯。際。小
より。れ。より。主。後。面。と。見。合。して。青。息。を。吐。少。時。言。語。も。の。も。り。を
が。稍。あ。て。五。百。推。刺。羽。真。石。小。向。以。不。慮。惡。風。小。遭。て。己。小。鯨。鯨。乃。餌。と
あ。んと。せ。り。危。き。よ。別。府。黒。丸。們。が。棄。一。本。船。ハ。如何。か。り。え。予。も。你。達。も

數日水穀を断。十分。飢。迫。り。此。嶋。ハ。何。れ。の。國。久。知。され。も。人。家。や。あ。ら
尋。見。て。り。有。何。れ。の。あ。れ。食。を。求。れ。物。と。求。め。れ。よ。と。今。も。真。石。承
り。い。と。搔。起。て。鳴。路。途。小。尋。往。々。も。稍。久。く。有。て。三。四。人。乃。嶋。人。を。引。連。て
く。り。あ。り。某。嶋。中。と。昔。く。尋。し。小。此。処。彼。所。小。僅。十。軒。行。の。磯。屋。の。小。童。女
乃。差。別。も。相。分。ら。む。増。て。言。語。ハ。猶。通。せ。と。い。又。食。物。と。求。ん。か。り。も。た。り。詮
方。か。此。者。と。も。連。ま。り。い。と。小。五。百。推。彼。者。們。を。引。連。て。髪。ハ。生。る。り。サ
肩。小。垂。身。小。の。肩。と。編。む。短。衣。と。着。藤。繩。を。帯。と。腰。小。木。皮。と。組
造。り。る。鞘。の。下。れ。物。と。提。面。の。色。ハ。洪。浮。の。皮。の。と。長。髪。頂。只。の。周。り。髭。と
く。けて。生。眼。環。く。き。と。光。人。人。々。々。不。審。氣。なる。面。色。ハ。己。が。何。士。何
つ。置。く。言。と。も。更。小。通。ぜ。と。業。然。せ。や。と。五。百。推。と。書。目。て。足。せ。る。事。小
解。せ。さ。る。体。あ。れ。死。と。を。あ。す。と。所。小。忽。ち。磯。邊。に。は。小。舟。ハ。安。ら

嶋夷より来たるが五百雜主従の休をんく發馬き一顔色も足さ
殿達ハ日本の武家方おて在り此嶋へ来せし風あんとし漂着し
のふよとりの其言語ハ日本の刻かりをわし五百雜少一力を得彼者向ひ仰
言て我門ハ日本向國山岳の伴人なり朝廷の御下知依り百餘國乃
援兵として隣國の諸將と俱に彼地へ渡海し軍戦ハ勝利を得既朝せ
んと百餘國を出帆せし海上や俄に惡風をり我船を先と本船も
何地々漂流しん其行方とあらむ我船ハ辛りて此嶋小着り然れども船
中疾より兵糧乏しく皆飢小臨めり何をもあれ食物とよし價小船中
右とらうの武器調度と小任せ得るを先。先此嶋ハ何れの國なるや向
らう小彼者答て曰此嶋ハ眞假夷小近れをあれ嶋おて五穀一粒も生ぜ
只魚を釣鳥を射朝夕の食と木の實生とる頃も栗柿の類をも

糧小あていども早冬も近く余國より寒氣強く九月の中旬より雪降
いむ此頃ハ菓とふ毒ハ鮮鮮の脯ふても厭ひるを何裡おても進せ
いぬとや小ど何おても食小あつた物おを疾得させよと乞ふり畏り
いそと始まり嶋夷と歩連て走り往り多し少時あやして干魚數多き
擔ひり出まり差出しぬ五百雜主従是とらう小樹の枝のく干固する
脯あれ是ハ如何と食をなれやと問小嶋人們手毎小礮路乃砂と撿堀
件乃干魚を押あふ其上へ又砂とあれて手おり。落葉枯枝と多く取あて
埋るる砂の上小積重つ。火とて焼く。五百雜以下其意を得た
海濱の寒風小凍へる折あれ嶋人們と俱に焚火を中めて圍居し火口
脚と温め少し寒氣と忘とら。時小五百雜以前の馬小向ひ此嶋乃産
和國の刻小通せざる小你のし倭語ハ通せざる不審られ。そも你ハ此嶋乃産

推キ其愁腸を牽。実憂節ハ我のあぐ人の上あり有るるふか
互小結合その肉小肺の炙。嗅頻小鼻と空つ小ど出雲男心つた。あれた
物猪小肺の焦過やせんそ。灰火の砂と堀埋るる肺。取寄潮
洗ハ疾うとせり。動カハ五百粒を先とて即黨們も手毎小把。是
食とる日平日小食せざる物。折る折る思ひよりハ甘美覚
主従志マク小食。漸ク飢を志せざる。五百粒出雲男小謝。曰。你厚
志小。珍れ物と食。腹満る。當所ハ假夷小迫。とあれハ本國ハ飯づれ
方角知るふ那れど。ゆせん船損。帆柱折れを糸。修理を加。道
此嶋子滞留せん。百と許さやとをれれ。彼者頭を搔。安脚妻
い。此嶋小家。居十軒。が黒木。住。藤。と。屋根ハ毘布小
て。黄。間。狭。小。上。一。軒。毎。小。男。女。六。七。人。又。八。七。八。人。住。者。も。い。ハ。殿。ハ。も

あは脚内衆八十人小余り。如何いん。當惑せ。体たり。五百粒其色
を察し。重て。曰。家居。我の宿を許せ。手の者どもハ野陣を殺
明。翌日ハ又絶。と。出雲男制。曰。前刻の脚物猪
小唐山の軍小伐。勝。と。皆。鳴。呼。の。兵。達。小。在。と。重。れ。も。此。嶋。小。赤
熊。と。怖。れ。猛。獸。の。雪。の。降。頂。小。日。の。晡。時。と。れ。山。を。出
人。を。必。と。取。食。ひ。飽。と。れ。雪。小。埋。と。れ。餓。と。れ。又。其。屍。を。堀
出。と。食。ひ。さ。る。の。小。己。が。眼。わ。る。程。の。者。三。人。小。五。人。小。五。人。小。五。人。小
て。食。殺。ハ。其。疾。と。飛。鳥。の。如何。剛。の。者。小。彼。惡。戦。小。出。達
と。れ。命。と。全。う。者。た。此。頂。件。の。赤。熊。山。より。出。る。と。晡。時。後
嶋。の。者。家。小。困。蓋。り。焔。硝。を。終。夜。燻。ハ。物。を。家。を。搔。破。り。人
害。と。言。傳。ハ。己。此。嶋。ハ。漂。着。と。以。来。彼。獸。小。者。我。人。小

數まねどい。御内の人々弓箭前の道小長も。彼悪獸の害と免れま
ま。其赤熊と云ふ。何なる形の者ぞ。向小答て曰。已へん。其赤熊は
も古老の結りひの形。大なる牛。右て丈高。全身小紅毛。生て毛の長
る。五七寸も有。面繪。描る。虎の。口大。裂衣。長。牙。下。小。生
眼。鏡の。光。り。四。足。の。爪。猪。の。牙。丸。尾。八。馬。の。地。小。無。吼。る。声。と。鯨
の。と。と。や。せ。り。此。嶋。人。と。木。の。弓。や。海。中。の。鯨。鱈。亦。と。射。取。或。臚。胸。臑。を
射。る。或。産。業。と。い。ひ。武。藝。の。學。び。れ。も。弓。矢。と。り。て。天。鹿。鳥。と。い。ひ。射
損。む。る。其。の。い。い。ど。さ。る。心。剛。なる。嶋。人。大。勢。物。法。小。潜。隱。と。彼。猛。獸。と
射。取。ん。と。多。く。度。ふ。れ。も。彼。が。身。の。皮。鉄。石。の。ど。く。矢。の。毒。や。花。を。却。て。彼
が。毒。小。害。せ。れ。い。中。敢。て。半。下。と。者。も。な。く。絨。小。假。夷。地。及。び。其。余。の。嶋。人

乃大患。彼赤熊。小い。と。と。と。戦。て。活。り。え。れ。五。百。推。冷。笑。し。其。赤。熊。と。や。人。知
何。猛。と。い。ふ。も。虎。の。勢。ひ。よ。も。勝。る。が。守。辺。丸。例。の。大。伴。金。鳥。百。倍。咽。ひ。て
牛。の。と。丸。鹿。と。半。捕。小。せ。り。我。金。鳥。が。力。小。及。む。と。今。夜。其。惡。獸。の。出。ま。る
と。待。受。箭。前。の。小。射。伏。く。永。く。嶋。夷。の。患。を。除。れ。得。ま。ん。と。更。も。た。げ。は。言
放。ち。な。る。小。出。雲。男。惆。果。殿。り。彼。惡。獸。を。退。治。む。と。小。嶋。嶋。の。大。幸。小
て。い。も。恐。ろ。殿。の。御。矢。も。彼。が。身。小。立。の。十。二。射。損。の。い。あ。さ。る。御。令。を
惡。獸。小。害。せ。れ。い。ん。知。る。願。く。此。儀。を。思。し。止。ま。り。と。練。れ。五。百。推
完。亦。と。亦。矣。你。們。が。魚。鳥。と。射。る。矢。と。何。が。小。思。ふ。か。猛。獸。小。立。す。と。た。だ。お
む。あ。め。惡。獸。が。身。と。い。も。金。石。あ。て。よ。も。あ。ら。彼。海。岸。小。聲。り。巖。の。彼。獸。の
身。と。何。も。堅。く。人。先。我。弓。勢。と。見。せ。ん。と。と。様。造。小。虫。小。令。と。飛。中。か。る
弓。箭。前。と。取。ま。せ。な。る。嶋。夷。と。も。立。寄。て。入。る。子。ら。八。重。藤。小。握。る。小。余。ら



百合推海鳥小
巨巖と射て
弓勢示す



ちかり太く、昔の苗竹のごく、鷺鳥の羽と、知鳳股者、鎬矢有て、皆尋常
の矢より、抜群小大のかりたり、出雲男及、比嶋夷、どの調果て、感トたる

五百推弓勢射赤熊

此時維り斯と告知、久嶋乃男女、致と、尽して、儀造小地、来を、違小
間を隔て、群と、何く、置言て、見物と、五百推、從客と、て、弓矢と
把先、絃、射と、弓と、絃、傾、大鎬を、弓小、ち、左手、の脚と、前、踏
出、右手、の脚と、後、踏、と、満月、のごく、響、紋、リ、皆、神、ひと、固、えて
矢、声、俱、小、切、て、放、せ、む、其、前、流、く、と、鳴、響、音、で、百、步、小、余、る、荒、磯、の、巖、の
尖、ま、る、ま、と、過、ま、と、兵、と、射、る、ま、さ、と、の、堅、巖、裂、裂、る、ご、と、と、音、と、と、大、戸
許、射、碎、り、て、海、中、へ、岸、破、と、落、り、其、音、地、震、の、震、と、と、凄、く、響、れ
る、れ、五百推、の、郎、黨、を、首、と、數、多、乃、嶋、夷、と、一、日、小、噫、と、感、む、と、る、声

皆、鳴、も、止、ぎ、り、り、り、彼、出、雲、男、及、比、嶋、乃、者、と、も、五、百、推、が、前、小、来、り、と、拜
伏、し、頭、と、く、地、を、叩、れ、礼、と、な、と、中、も、出、雲、田、か、白、古、より、唐、倭、小、強、弓、の
達、者、と、承、り、り、い、と、君、の、ご、く、巖、と、射、碎、り、小、強、弓、の、前、代、と、と、び、と、心、と、
ハ、後、世、も、又、有、命、と、ハ、思、り、れ、と、久、く、船、中、お、て、風、波、お、れ、ひ、饑、小、乏、飢、
と、仰、き、小、猶、脚、力、の、衰、ゆ、と、小、実、小、神、の、脚、再、来、お、て、在、と、人、間、業、と、ハ
ん、え、と、あ、ら、む、と、い、る、脚、本、枝、を、以、て、ハ、惡、獸、と、射、魚、と、久、妻、り、易、と、る、と、時、本
と、早、く、い、む、見、者、と、い、と、先、伏、家、お、入、と、憩、日、と、嶋、夷、と、俱、小、致、ひ、り、と、死
五、百、推、主、從、を、勧、め、く、家、居、あ、る、方、へ、伴、ひ、往、軒、の、茅、屋、結、入、る、人、く、肉、小
入、く、家、の、建、ぎ、と、入、る、小、実、も、荒、木、と、柱、と、屋、根、ハ、昆、布、お、て、茸、四、方、と、紫、茸、置
あ、と、て、結、つ、風、と、防、備、と、土、間、小、萱、筵、と、敷、と、住、居、あ、り、と、る、家、居、中、住、
む、住、り、と、も、主、從、と、も、嘆、息、と、あ、ら、む、座、小、著、日、頃、の、疲、勞、と、休、め、り、行、く、出

雲男古くは陶器と捧げ奉りて是を呈せ五百雅是と云ふ塩煮のせし
鮭かり主従己小空腹おけり折るれ取あを是と食する小多矢一干魚より
ハ今丁々味覚へ喫する内家弱と覺る者陶器物と推し出出雲男を
盆小鮑貝と多て捧出濱風小寒とやあつらん造酒一盞きりてをとて勸
めたる五百雅おけり此嶋小酒を醸せるやと問答て曰否此嶋小五穀とも
生せされ酒と醸まきやういふも日本より交易お来る商賈の持渡酒
を乞ふ茶餅の料小貯置病者お用ひて滴汗づ飲せし頗る驗有
と申せり今日賓客の脚管侍おと主弱の貯し或献りひなりと申あを
五百雅淨く謝し是の重た飲食進んふと石決明貝を採り一杯を傾け
郎堂お由杯を廻と各與と催したる程小早日由暮りて雪
降出しるれいのでや猛獸を射とらん五百雅其準備し郎堂小弓矢

採持せ出雲男と引路小連山降おけり木深れ社の中小潜り寄管周り
て空窺ひ待小雪いふ降まきり頃と九月の廿余おけり月さ出ぬ圍り松
も雪明小物の黒色ハ見えつおれ悪敷疾未けりと五百雅力腕をまきり
て窺ひ待とりも其と思ふ者も出本も掛木の雪のおれ落る音
荒磯の岩小確る浪の音のまえて夜ハ頻お更るふつ風面と紋か
かく寒氣肌骨小徹り五体も凍る許あれも猶精神と勵して待小終小
其夜ハ悪敷出まきり夜ハまきりと明おける五百雅大い小を矢其
日八回の芽屋へ入り夜小入む又山道へ往り窺ひ待りも其夜ハ又出まきり
して空し明多るお五百雅まきり心樂しすも日の暮ると待り弟三日の
乃求以前の杜の中へ到りて窺ふ小此夜ハ雪殊小強く降寒風烈しく冷
冷氣前夜ハ十倍も屈せとあれ悪敷まきりと待入

大井金道



く思ふうち早夜ハいつ更方と見え降止雪の雲透小下弦乃月幽小見え
る。然る小遙彼方小忽ち鯨の吼るうたえ声三声許せえたるふと出雲男
覺むと戦慄し須鴛彼声と赤能あつくと言ひ果むと俯小伏首と抱く蹲
りぬ五百種ハ飲せんと弓より寄弦ひまり箭と手後杜の外画と瞬ゆせず
窺ひ居るれ刺羽荒瀬とらわ十人の郎黨由主君より射損ゆり刺殺
さん眼を賦り息と結てと守り居る。程小猛獸ハ路上乃雪と四足小蹴
とて草まり杜の中小人有と知てや頻小鼻と鳴。暫く徘徊あやや孔入ん
とと五百種ハ疾より響儲る大尖箭と兵ど切て放た小矢坪と遠むと左
の眼と荒深小くそハ射りうる尋常の獸なりせむ此一坐前小く斃死つ座をれ
ども猛惡の老獸あれは是小の瘡もと大小吼りなりと猶も巨口と張樹枝
を咬んで死来ると五百種早く二の大鎗を切て放つ小過さず惡獸ハ用

張るる口の中ハ幾半と射と鏃と腦後ハ五六寸むり射抜らう。さうも惡獸
も二三所の痛手小瘡と眞倒煩向と吼苦々々と刺羽荒瀬を首より十
人の郎黨勇を尻小手毎短刀を拔持馳出て滅多実小突られも刃を少
も惡獸の身小まむ却り怒り吼りく刎起とまれも矢痕小惱と起得ど
四足を働くと七蕪八倒らう五百種其遠小寄かある老獸背の皮小
刃をすし腹皮ハさもあがる。咽下と刺り刃もと不知りれ古江磯瀬小の
者も蝶死強く惡獸の四足を捉て仰さ小押伏々刺羽ハさふると短
刀乃柄も通ると咽輪小突立腹へさりと切裂々るふ安々と裂て鮮血送り出
満地の雪と紅井小凍腸あられ出數声吼りありて終小息絶とる是より先
小出雲男ハ五百種ハ惡獸を射止と見て家小まじり飲り嶋人小斯と告知
せ々るふより四五十人の男女男ハ手毎拒火と振照し女ハ其後小付く群

まきく 猛獸の屍をく。何う喧しくいへ。五百推の弓勢勇壯を感ぜたるは。五百推王従へ拒火の影ひて悪獸の体を見る小形ハ牛より長大して全身小紅の長毛生く金毛交り尾髪ハ長き四尺余リ。面短く眼大い口ハ耳根多く裂齒ハ乱抗のく左右尖丸牙生四足の爪ハ録のく曲リ曾て和漢兩朝ハ聞及むる恐ろし兇獸なり。出雲男ハ五百推前小三拜一誠小將軍の御弓勢よりて。さとの悪獸亡び此嶋ハも更なり殺許の嶋人們明日より業と安ん枕と高じて寝る。豊備小君の賜なり。殿ハ此嶋の生神ハ在リと嶋人們深く敬ひ。終夜冷ゆや疾家路小飯のハ焚火小御身と温めると勸め嶋人們ハ赤熊と繩おて搦之水押権おどして七八人の者是と擔ひ五百推王従を圍繞し。勇々唱て家小飯り柴枯草と多く積て焚火と熾ハ或ハ魚鳥と煮酒と温て王従ハ勸免尊敬

以前小十倍せり。五百推王従ハ夜とも寒氣と受れ火ハ酒食を内夜ハ明も雪ハ強く降ゆ。王従枕小能く終夜の疲勞と休々。諸睡覚て後五百推出雲男小命ハ嶋夷小彼赤熊の皮を剥せ乾くると是と見小美く。許ハ心大是と愛し本國小持飯り諸人見せむ。晦珍と称すると思ふ。心大のく。出雲男小破船と修理せん。更と令ハ孤嶋あれ。船番逐ゆ。いり。火連ハ更調ゆ。今誓。此島ハ逗留。日本の交具船の来る。たあゆ。只時節を待。小。五百推力カ。心あ。嶋小。眞郎黨們と鳥と射魚を釣。僅小心と慰。夜ハ妨嫌。内小塊を花。萬の衣小身と覆。透間。沖津波風身小。古御の方乃夢も。只。胡國の鷹の如。物憂月日と送り。

大友皇子密謀 賜諸將恩賞

結託日本小の天智天皇三年甲子の春小のありて去年百俵國援兵とて
彼地へ渡海せし九州四國の諸將に恩賞を賜るなりとて。執政中臣鎌足公
小のの旨と勅掟ある是小依て鎌足公諸卿を集めて其評議ある小異説
區々して更小評議一決せんと如何あると尋る小當今天皇弟六の皇子
大友皇子と由り天性聰明令利ふなり。御幼年より文學武藝と好む小
普く倭漢の書小涉稱一の御年長なる小從ひ博織廣聞のやえ高く
又弓馬擊劍の道小も精しく御力量と普通の小勝りなり。天晴文武を
兼備し多しと緒人奉て稱したり。小惜る小美玉小瑕有るがごとく御心悍
々しく短慮殺伐あり。一向田獵し狩と好む小殺生と二がた樂と思食との
御行迹荒れく在せし御又天皇は是と歎れり。博の公卿小仰り御行

跡温順小なせり。中練させり。小更小練と納り。小狩漁の間に小を難を
圖りて大を合し。殊小薄情に池小蛇を多く飼ふ。徒我の折小御手はく蛇
と引列衣のひて是と決し。其他ある殺生とたのみ小と帝殿聞きしと
深く忌疎のひくる暴悪の者小王位と讓む。万民と困め。遂小天下の強と成
なりとて。御子あがも御親と深く。帝位ハ御弟宮大海人皇子 後小天
小人 叡慮小薄く其更中えり。大友皇子甚だ不快小思食御又帝と
恨ませり。御叔又大海人皇子とも御中睦く。内御自之の御企と思立
朝廷の公卿の内物の用小多。思食人へ時思と見せて心と傾けさせ。遂小
御企小荷擔させ。又武官の中小の内味方小招れり。武士少く。中も總積
百枝日舎弟五百枝ハ分て。毎二の御味方小。昨年百俵國援兵の如し。皇子の
執養む。總積五百枝小惣大将の任と授けり。是彼地小諸將の剛膽を

大友皇子密謀 賜諸將恩賞

弑一昧方小勸めせんとの御内意なり。儲君と五百枝百俚國にて佐伯連男大伴
金鳥金田五百推が長臣別府黒丸其餘の諸將を皇子の御味方小勸めたり
されば朝廷の群臣大海人皇子小心と寄る人と大友皇子小一味と寄る人と二流小
ま。此度恩賞御沙汰の評議一決せざるなり。然小徳積五百枝大友皇
子の御所へ侍候と密言上りたる先達て申上りて。百俚國小御味方小
加々せの諸將の中。別を御用小立ぬる者。佐伯連男と大伴金鳥小
就中金鳥小万夫不當の剛の者。大虎と平捉小。沙鼻岐怒江の堅城。僅
二十騎許。取。大唐新羅の猛軍と遠く退退。八年。金鳥が力。然
も今度の御恩賞も金鳥と弟と。白。彼。彼。墓。所。領
もなく。兄大伴馬本田が部下。兄と。置金鳥を重く賞。人も。智。爾
い。馬本田と弟の功。弟二と金鳥と。弟三と佐伯と。其他御味方小一味

仕の輩の賞禄と重く。其余の者ハ程く取針の多。且又金田五百
推ハ難風小漂流。生死ま。い。家臣別府岩楠其家督と預リ
い。去年其義と松。彼岩楠も御味方仕。神文と捧。む
今度召登せ。金田の家。別府小継せ。彼御大事。及
ひ。忠勤を御。具。偏頗の論。任。言。先
む。皇。子。遂。小。御。用。あり。你。や。条。丸。が。所。存。と。符。合。せ。り。丸。は。小。沙。汰。を
ありと仰。小。五百枝。猶。密。事。と。申。上。れ。其。日。ハ。退。出。ま。り。斯。く。三
月上旬。大友皇子。御。内。あり。今日。ハ。百。俚。援。兵。の。恩。賞。と。定。む。下。と。諸。卿。を
朝廷。集。め。皇子。位。階。と。進。出。り。群。臣。小。向。入。百。俚。國。援。兵。の。諸。將。へ
恩。賞。の。沙。汰。を。御。勅。旋。小。先。日。より。其。評。議。小。及。り。由。在。積
區。く。一。決。ま。り。依。て。彼。地。へ。渡。海。せ。物。大。將。徳。積。五。百。枝。と。呼。寄。紀。録。と

関する小勲功の第一者大伴兄弟第二者佐伯連男第三者金田五百種と記
しれども彼五百種は飯朝の御悪風より漂流し生えられたるよりあれは家督
代長臣別府某小継せ加禄を子爵。其余のさの軍功は優劣を死由か
とを禄を増お及むと紺帛とより更足なり。先大伴馬末田は豊後
國內より二郡と加増し九洲の探題と。舎弟金鳥は中野一郡とより一城を
築くせ是が城主と。佐伯連男は四鶴崎一郡とより是又一城を築せ
一城の主たむむせたり。列位所存ある腹藏たりやするなり。座中と記
りて宣ひたれむ。兼て皇太子の一味の蘓我赤兄中臣金連二人討を揃へ
實も皇太子の御せりひこそ公の論おこし維う否いふをとり尾ふつははく皇太子
方乃蘓我果安巨勢人臣紀の大臣とあんと俱小然るなり。やうな後小
中臣鎌足公は先刺より一言も殺せむと居るひくろが。皇太子の定めあり。是を

依怙の御沙汰のいあれは是必を深し御趣意有またるなり。今是を拒む
如何なる凶変と引出さるらん。知れ。先皇太子のさうし小任せ置後日小計り
申うとあつて思惟去るひ面小其色も顯はるる俱小然るなり。やうな
小と執政も鎌足公は如此あれを列座の公御維う一人異議を申人もなく
衆議一決し小より皇太子喜悅ありて帝(奏)聞あり。即四國九洲の諸將を都へ
召させ。大伴馬末田と二郡加増の倫旨并小九州探題の官印を賜り
舎弟金鳥佐伯連男も加恩の倫旨と下され。金田の長臣別府岩楠小八山
鹿の城主とるなり。御書と賜り。其余皇太子へ一味せ。輩八重く賞禄とあえ
御味方せざる給布の類と三百反五百反分小應じて下され。其輩甚ど
悦む。我々遠く異國小渡り。矢石汗馬の勞と凌り更何と小疎へたれ。ものを
只大伴兄弟佐伯別府が輩小の莫大の恩賞をよられ。我々小給布

症となりて医療手と尽せども瘥か己小令由危く月えられたる岩彦天の
心と困の神佛祈誓とけ主人の本腹と祈とろふ中野の村落小垣の
雅明とける医士あり此者の祖及の陶明とて高麗の医師たりとる子細有
る日本渡り陶明が子祐明とて者豊後の中野小居住し今の雅明は所
小住して医成業とせり此雅明いふ若年おつ天貨才機あつて医術も
精しそれも運用ける友や家貧く一人の老母と月小夜と呼る妹と母子
三人細れ煙とどまよる。若く或人岩彦小雅明とて語りて勸めれば若年
の田舎医師何程のよろ有るかとへ井りとも普く緒方の医師小治療とて
今頼むるれ方もなれに己まど得と雅明が終りに到て主の治療とせり
小雅明快く昔て春衝が客舎にり。客射とてく調茶とて文膏茶とて用ひ
親小療する程小。衝小治と昨年の秋より今年春まで二年越の難

病とて二月終り今平愈しとる是依て春衝主従斜あを悦び
雅明が医療小長せと感一日春衝岩彦小謝物と持せ主従雅明が方
へいり。本復の悦びと述治療の恩を謝と謝物と呈しこれ雅明も有り謝し
主従を奥房小結し妹月小夜小茶と運せ酒者と調て管侍しとるおと春衝
主従辞退志おと益と受主客三人酒酌り。四方公方の終結のついで小春
衝雅明小向の先刺し物と運び六公の内室小いと向く小雅明とて笑ひ
小生いよと妻と迎を渠の妹といとと各々。春衝歎息し。天暗官家高位
の簾中備るとも耻をくさる客貌あふ。ゆる扁鄙の叶小埋む最中
ぶれしうの言々小雅明微笑し渠們がうの論むる小定と小生此年京都
城上り何きの官家小も勤仕とて又祖の名も顯さるり思ひい運出く
身貧くしてとて遂にたり其れ且さ御身ハ朝廷小事ハいと承り

何史遠く異國へ渡り金瘡と受めいやくと向春衝が曰其更不就一條
の物語の度長けんはまゝ其首如此なり其尾如是と又怪大臣新
羅百條の和義と針らん勅命と奉りて百條國へ渡り新羅王不欺まで
燈臺鬼の耻辱と被りしより自身百條(到りて又と救ひ取り琉黄が嶋にて
又大臣が死せし條和國よりの援兵ふかると再び百條國へ渡海し沙鼻岐
怒江の城内より金瘡と受金烏が扶助して今中野の城中小客居條まで
と懐旧の涙と俱小結する小と推明始終をゆく春衝が艱難を察しやう
數度歎息と俱小落涙せど及びる春衝涙を隠しとあさひの
長然小多し時と移しう今六盃盤と収めし脚暇のらんを辭し雅明
今二盃傾けしと又あさひの酌りし終る春衝主従數刻の管侍と謝
別と告ぐ中野の城へと飯りくる並る小雅明が妹月小夜は已る爪破の春と迎

物の情もある年がえりごと春種が人品柔和してまゝ威有て猛くぬ
と見下し萌をむる憲州の乱るあろをむつけし入傳をぞりしゆかると胸小
思ひの火をさして次房と去も得中をも唐紙の間より其面影とて覗居る
小春衝が憂艱難の物語を聞其辛苦と推量りて不覺小袖をぬぐ且其
孝心義膽と感じいづ想の増りあれける健男小身を寄てこそ女小
生まゝ甲斐有るをなれと人志れと憲慕の心の闇中ぞりれける
金烏辟邪月小夜 姪婦練奪艶書
大伴金烏の奢移淫樂日小増長し武士農民の差別か。容顔とこれ
くも女小認めあむ抱あれもと郎黨の言渡しれぬと主小阿婆者も
其意小協んと我もくと美婦と尋求めて奉公小し出しける其中小岸根
猪尾小倭奸縮縛と以て殊更金烏が意小叶ひたるが猶も主小籠せれんと



月小夜



春衡 醫師雅明と
酒宴 月小夜
春衡と懸相まじる図

雅明

専ら美顔の姿を尋る小何者告りけん。醫生雅明が妹國色有る。て独笑し。沙金巻給ふと家僕不持せ。駕と早せて垣の雅明が家不到。面と曰く。八領王金鳥公。你が妹の美顔。を聞食召抱来る。今日近小来。部ち此臺の物。殿より下し置る所なり。誠小依。が大幸何更。是小如八畏と申。疾脚奉公。上と上と。王の威と申。着て最。権柄がうつ言。れ雅明大。小驚た。嚴命。恐全より。小生が妹。其甚醜。且貧家小生。之行儀作法。お習ひ。貴人の脚意。小叶い。而た。脚。聞遠る。ど。や。の。辭退し。れ。猪尾更。小承引。せ。否。敢て。脚。有。分。や。や。あ。ん。主君の。嚴命。倫言。と。比。出。て。再。小。御。領。下。小。任。者。雅。う。仰。更。と。背。く。辱。れ。若。強。て。辭。ま。を。却。て。座。を。と。蒙。り。親。子。兄。妹。縁。親。と。重。を。罪。科。小。行。る。と。と。臂。と。張。高。声。小。言。懼。し。る。小。推。明。殆。ど。と。あ。ま。し。及。

養徳 多小 妹ハ次房小 始終を聞ゆる 頼り小 思ふも 我身と惜ば 母兄 とも 如何なる 憂自小 遭のうん 女心小 案し 煩ひし 此身と捨て 母と兄の 禍 と 懐念し 心小 思ひ 定り 母の由と 告て 兄雅明と 招れ 耳 語る 小 應 卜の 母親も 御身も 罪と 蒙り 只 吾侪と 奉公 小 牛と 罪と 免ま ぬと 甲斐と 練め 雅明 妹の 心中と 早く 察し 是母と 兄の 禍と 救ぐ 心小 深さる 奉公と 望む 其苦心と 憐む 領主の 権威と 押さ せ 己更と 得む 妹の 練小 従ひ 眞房へ 出て 猪尾小 向ひ 貧賤の 者の 貴人小 仕 なる 更と 悼り 脚 辭退し 上にも 脚 更 濟め 上 嚴命 小 従ひ 妹と 上 此 時 の 御 宥 恕と 願ふ 言 猪尾 色と 和 げ 承 引と 其 中 満 足 せ 心 徐 小 用 意 せ 猪 尾 色 依 雅 明 母 小 俱 妹 小 浴 せ 梳 せ 衣 服 改 更 せ 猪 尾 色 面 前 伴 出 猪 尾 始 月 小 夜 見 思 小 思 小

より八十倍勝し佳人也（大い悦び一向り）譽稱し月小夜を如鳥小まよもて（男）
進（中）主飯りて金鳥が館へ伺候したる小金鳥ハ側室の膝小侍を（侍）
駁（と）せ稍酩酊せし体（ま）を猪尾時をよましと面前小拜伏し其殿の（お）
小普（美）美人を尋求めいひが今日毎双の佳人を求得て傳聞西施李夫人と
りとも彼美人ふらむを（あ）るも勝るる（あ）いと誇り小言を金鳥が館
小入（り）も承出せし疾連（ま）れもと令ずる其初め終る小猪尾座を起
傾（て）月小夜を誘ひ出で金鳥が褥近く坐せしめ月小夜の生を（え）燃た全の
廳前（曳）出され心地顔（と）紅（ら）金鳥が（ら）座の女（も）小會釈（て）て（き）免首
居（り）久（し）金鳥が（ら）眼（を）小月小夜を見る小桃李の顔愛敬つれ細（れ）黛ハ（ら）段（を）遠
山の（ら）朱唇（を）丹（を）丹（を）小似て今（で）美貌（を）小見え側室們（も）月小夜小入（り）
ふれむ此の前の深山樹の如（く）あれ（ば）金鳥が（ら）心（を）ち環（れ）眼（を）と細（く）疾（は）是（れ）倚（れ）

て荒（ら）く（し）幸（し）小月小夜（を）織（く）腕首（を）握（り）恰（も）鶇（の）鴛（を）を（ら）捕（り）て（は）禪（の）
上（へ）曳（上）た（ら）月小夜（を）怖（く）も又愁（み）物（を）せ（た）上（へ）涙（を）と吞（み）ひ（の）致（し）九（の）の（む）
思（ひ）つ（て）只（身）と（標）針（の）席（小）坐（る）心地（一）多（る）金鳥（ハ）百念（と）忘（れ）側（方）も（太）刀（を）
掛（の）太（刀）を（把）猪尾（前）投遣（你）働（れ）技（群）かり其太刀（ハ）當座（ハ）引出物（ハ）
取（せん）猶（思）賞（ハ）他日（ハ）沙汰（を）退（て）休足（せ）と（言）捨（月）小夜（を）引（き）つ
浪（滄）と（て）閨房（ハ）入（れ）猪尾（ハ）仕（を）と（悦）び太刀（を）拜領（し）退（出）と（け）
後（ハ）金鳥（ハ）月小夜（ハ）佳色（ハ）小魂（を）傷（し）昼夜側（を）放（さ）と（罷）受（ま）す
更（限）か（れ）今（ま）壁（を）せ（れ）先（の）側室（們）ハ有（ど）も（毎）が（て）と（面）前（へ）出（び）
され（ど）己（が）丙舍（ハ）執（り）居（て）枕（小）積（る）塵（と）俱（小）死（心）の念（日）小重（り）我（と）身（と）
燒（嫉）妬（妬）の（焰）小（の）授（子）の水（も）湯（と）ち（ろ）ち（ろ）三子（の）粉（黛）顔（と）矢（と）賦（し）ん（唐）山
人の言（ハ）葉（も）今（ハ）己（が）身（の）上（ハ）思（ひ）あ（ら）り月小夜（ハ）一人（を）妬（む）思（ふ）あ（れ）追

退る便ゆあつと四五人の女ども互小示令一專其過ちと見出さんとして規ひ
る。月小夜はうらる妻をもちまご。金鳥小籠せらる。獄卒小呵責せらる。如
愁の且彼が短慮殺伐ゆく。侍女近習門が聊の過ち成。言愧しけ。擧懲り。又
を手討ふもるも多かれ。愈忌疎介。身と道せり。思ふ就一の度見初
春衝が面影を忘る。いづ城の内小住あか。尾と隔る。山鳥のちの鏡は見
る。さふやうせぬ。憂身と恨。び干ぬ。袂の乾く。間もけ。せめて。夜乃。夢小。小。え
る。う。と。や。と。枕。小。着。む。う。や。金。鳥。小。ち。り。起。ま。れ。た。か。あ。れ。夢。の。技。由。中。絶。せ。り。
鳥。城。の。神。し。り。も。猶。醜。る。金。鳥。小。見。る。身。と。ら。今。中。く。玉。の。緒。乃。絶。お。絶。よ
と思ひ弱。世。世。い。る。其。姿。ハ。刺。花。一。枝。雨。を。帯。風。小。う。う。海。棠。の。て。く。い。か
艶。麗。さ。と。勝。り。たる。能。小。一。日。金。鳥。ハ。山。狩。せ。ん。と。狩。装。束。い。づ。め。く。刺。う。ハ。崖。根
猪。尾。と。首。と。て。近。侍。外。様。の。若。殿。原。と。引。連。朝。疾。城。を。立。出。せ。れ。む。月。小。夜。ハ

又かれ閑暇と得ると悦びとも長るるま。れ今の肉小彼想人小心のそけを
知し。其と此世の思出小せ。やと。独。丙。家。小。さ。う。篋。り。視。引。よ。を。手。も。あ。う。小。意。慕
想の程と細くと書つ。ね。堅。く。封。じ。て。文。管。小。納。り。召。使。女。童。と。呼。寄。より。言
合。中。で。春。衝。が。拜。つ。と。遣。つ。る。豈。あ。ら。ん。や。月。小。夜。と。嫉。む。女。を。疾。し。障。子。の
間。より。覗。れ。居。る。が。此。妻。と。思。は。れ。て。ま。と。や。完。竟。の。幾。乃。種。と。廊。下。回。り。て
彼。女。童。が。持。つ。る。文。箱。を。引。奪。ひ。た。う。小。と。女。童。の。大。小。致。馬。た。あ。や。と。い。く。後
叶。を。五。人。の。側。室。乃。申。小。閑。路。と。る。女。神。と。其。口。と。抑。へ。己。が。丙。舎。連。う。り。鏡。り
謙。して。曰。殿。兼。て。五。偏。們。小。令。々。の。誰。小。の。あ。れ。館。小。奉。公。と。る。者。我。小。隠。し。う
文。を。小。成。他。の。者。小。贈。る。成。ん。を。奪。取。て。我。小。ん。を。成。り。若。金。所。小。ん。の。後。日。小
其。の。露。頭。あ。む。其。文。と。贈。り。者。と。い。く。重。く。刑。を。成。り。の。脚。妻。あ。れ。己。妻。と。得
む。と。奪。取。り。う。此。妻。あ。ら。ん。殿。申。上。あ。む。你。先。手。成。呵。責。小。遣。成。り。さ。れ。む。係。り

名隠し得きと云ふれど文章と持ちて月小夜主の言んずる彼方さるふ文
 と渡し侍りしを返言の後より贈る下よの御使たりといふ。你的過もふらふ
 り子。若文と奪まじ。更とあるふ告あを吾侍殿へ。あなたが更と申す。辛れ呵
 責ふ遣すと有りと言懼し。多るわど。重心小由金鳥が殺伐を恐る。か友よ。く小
 泣呪と止め。色ハ吾侍の名を包もれ。御教のてく。飯て中侍を。と。言。と。文
 宮と持て。月小夜ハ丙房へ。飯り。教られ。と。緘。チ。言。月小夜ハ。虚言と
 ハ。勢。力の。あ。と。春。衝。小。渡。せ。と。の。思。ひ。返。書。の。あ。と。心。待。小。侍。多。る。ぞ。と。さ。か
 り。と。さ。ま。ま。や。鼻。と。掩。は。せ。と。好。顔。小。傷。け。画。工。小。賄。賂。と。牆。面。と。醜。く。描。け。と
 一。例。昔。も。今。も。女。の。妬。む。り。執。念。深。く。恐。ろ。し。死。な。す。般。若。の。智。眼。を。以。て。見。

大伴金道忠孝圖會目前編卷之三畢

